

ペルー 日本向けにブドウを初出荷

ASIAFRUIT 2023年9月20日

日本はペルー産ブドウのアクセスを許可した53番目の国に

ペルーは、もっとも新しくこのアンデスの国にアクセスを認める市場となった日本に向けて、初めて生食用ブドウを出荷した。2千箱に相当する16.4トンの荷は、ピウラ県で栽培されたブドウである。

ペルー産の生食用ブドウは現在、世界の53の市場にアクセスでき、さらにいくつかの国との交渉が進行中である。

輸入国で規制されている病害虫がないことを確認して証明するため、検査官はランダムな検査を実施した。さらに、病害虫のリスク軽減策として適切な低温処理が行なわれたことが検証され、内容物の完全性を保証する独自のコード付きセキュリティシールも貼られた。

ペルー産のブドウは、日ペルー経済連携協定と環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(CPTPP)に基づき、日本への無税のアクセスを享受している。

執筆者: マウラ・マクスウェル

(関連記事)ペルー ブドウ輸出業者は日本市場に期待

The Packer 2023年9月14日

ペルーの生食用ブドウ産業は、今年早くに日本市場へのアクセスを獲得して以来、初めて完全な輸出シーズンを迎えることを歓迎している。エルペドレガルペルー(El Pedregal Peru)社のアンドレ・ファトーレ営業部長は「今年4月(正確には3月22日)からペルーに開放されたばかりの日本への輸出を開始する」と話した。

同社は、2つの家族が所有する27年の歴史を持つ家族経営の会社であり、中国とアジアへの輸出の長年の実績を持つ。同社は主に生食用ブドウを輸出しており、アボカドも扱っているとファトーレ氏は言う。同氏はアジア果実展覧会2023(Asia Fruit Logistica、9月6日～8日、香港)でのペルーのカントリーパビリオンへの出典で忙しかった。

ファトーレ氏は、「当社の主な市場はヨーロッパ、米国、アジアである。アジアでは、オータムクリスプ品種で売り上げを大きく伸ばしている。それはアジアで最も人気のある緑色の品種である。弊社は、アジア市場で『レッドドラゴン』というブランドを25年間持っており、これはアジアで最も人気のあるブランドの1つである。最初はレッドグローブ品種の赤ブドウを中心にしてしていたが、今では緑色のブドウを主力品種として、他の品種とともにブランドを展開している」と説明する。(以下「」は同氏の発言)

通常、生食用ブドウの収穫期は10月に始まるという。「弊社はペルーの2つの地域で収穫している。北のピウラ県から始まり、南のイカ県に移動する。収穫は3月まで続く。アジア市場では4月まで出回る。」

ファトーレ氏によると、過去25年間、同社にとってアジアで重要なことは、1つの独占販売代理店と取引し、そこを通じて中国の広州市場に果実を送ることであった。「我々は彼らと家族のような非常に長い関係を持っている。アジアの他の地域としては、韓国に出荷している。過去には、ベトナム、インドネシア、台湾でレッドドラゴンブランドのレッドグローブ品種が非常に有名であったため、それらの市場に多く輸出していた。現在、弊社はそれらの国でオータムクリスプ(AutumnCrisp)ブランドの下でブランド開発を行っている。また、韓国に特化したホワイトタイガー(White Tiger)という新しいブランドも開発している。」

ペルーの気温が高いことやその他の要因にもかかわらず、ファトーレ氏は、2023-24年のシーズンに、大量のブドウを収穫して中国やその他のアジア市場に輸出することを目指していると言う。同氏は「中国には概ね30万箱の出荷を目指しており、目標は約140コンテナである。約40～50コンテナが韓国、日本、ベトナムに送られるだろう」と予測している。

執筆者: クレイトン・スワート